

第1小委員会（組織・財政）

第1小委員長には森本小委員長（本社総支部）が選出され、議事が進められた。白壁副執行委員長から、安全、組合活動、女性活躍等について、課題提起があった。それを受け、組織、女性活躍、青年女性委員会活動、政治、財政等28名の委員から、72の発言があった。最後に、白壁副執行委員長から「組織の声が集まることで我々の強み」「ぜひ、色々なことを再開し組織をグリップしてほしい」などの総括答弁があった。

中央本部出席者

白壁副執行委員長 川端総務・財政・政策部長 石田 部長 沖田青年女性委員長 原組織・政治・福祉対策部

発言者氏名

金沢地本・吉川委員 中村 委員 上田委員
京都地本・向井委員 竹岡委員
大阪地本・山下委員 村山 委員 竹本委員
高橋委員 山本 委員 李澤委員
和歌山地本・上本委員
神戸地本・浮田委員 宮崎委員
福知山地本・川口委員

岡山地本・三宅委員 下山委員
米子地本・板倉委員 広島地本・尾本委員 水本 委員 松岡委員
西バス地本・山口委員 中バス地本・中原委員
福岡地本・高杉委員 本社総支部・宮里委員 山本委員 森委員

発言要旨

- コロナ禍で出来るレクは、労働組合の求心力回復に向け「努力の見える化」財政面の見える化を。
- 指令長手当の増額を。
- 逆単身赴任者の帰省等交通費について。
- 青女委員会の年齢引き上げを。
- 青女委員の労働運動に対する意識向上について。
- 政治活動への関心が低い組合員への対策は。
- 契約社員から正社員への積極的な登用を。
- 一時金の成果に感謝。
- バスの所得は全産業平均より2割低い。運転士の確保は、賃金実態の改善から。
- 賃金実態調査項目整理を。

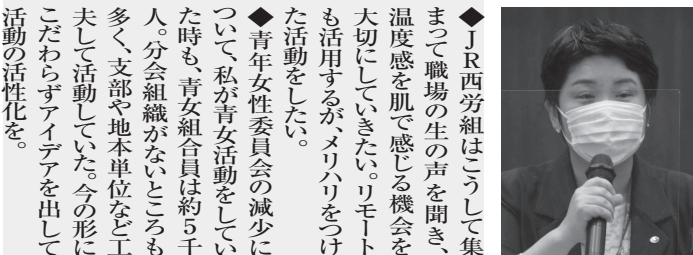
- 若手組合員に「仲間」を感じる「場」を作っていたい。
- シニアシニアリーターの待遇働き方に課題。
- 第3セクター会社への出向期間の検討を。
- 社内通信研修、実務認定試験等の申し込みのパーセンテージを。
- JR西労組JRPの各地方本部ページの掲載拡充について。
- 議案書等の性別年齢の記載について。
- 女性の役員比率30%を達成するためには。
- 女性の人材流出防止について。
- 働く女性の健康課題への対応。
- JR広島病院と県立広島病院の統合について。
- 女性社員の就業環境や設備改善について。

- 脱退者発生後の分会のフォローについて。
- 仕事と家庭を両立しながら役員として活躍できる体制を。
- 開催できる、開催する活動の展開を。
- 女性に役員を引き受けてもらうためには。
- チームスを労働組合でも利用できるなどコミュニケーションの整備を。
- 東京指令所運輸指令の在籍年数について。
- 両バス地本に対する旅費の補助について。
- 若手組合員の離職防止。
- 鉄道カンパニーとして時代のニーズに添った活動を。
- 西バス地本組織率99.33%であり二企業労働組合の達成に向け取り組む。
- 新採の加入行動について。
- コロナ下の組合費の見直しを。
- 組合の今後の財政について。
- 交付金の繰越金をどうするか苦慮。
- 共済解約の今後の対応方について。
- 新採の労金口座開設促進について。
- 交付金の在り方について。
- 交通共済からこくみん共済coopへの契約移転について。
- 企業型確拠出年金とイデコの併用について。
- 選挙時の紹介者カードについて。
- 野球部への応援のお願い。
- コロナ前同様の活動再開について。
- 支部分会の青年女性委員会へのあり方について。
- 福知山線事故を風化させない取り組みについて。
- 選挙活動におけるSNSの活用について。
- 西労組の活動を理解した政治家への支援について。
- 脱退者発生後の分会のフォローについて。

第1小委員会 発言者



挨拶をする森本小委員長



白壁副執行委員長

組合の世話役が出来る体制を

川端総務・財政政策部長

◆組合費については、今年度2か月間組合費を徴収せず10ヶ月予算とした。その経費は前年度の剰余金を活用している。現時点、組合費を上げることは考えていない。現在、2

組合は多様な人達が集まらないといけない組織



◆JR西労組は2万8000名の組合員があり、年齢や性別職種地域など色々な人が集まっている組織。私たちの活動は、部の人ではなく多様な人たちが参加しなければならぬ。

◆JR西労組はこうして集まると職場の生の声を聞き、温度感を肌で感じる機会を大切にしていきたい。リモートも活用するが、メリハリをつけた活動をしたい。

令和の組合のあり方とは

石田原組織 政治・福祉対策部長

◆世話役活動について、労働組合が組織を取り合っている時も、青女組合員は約5千人。分会組織がないところも多く、支部や地本単位など工夫して活動していた。今の形にこだわらずアイデアを出して活動の活性化を。

◆レク活動については、野外を



で議論しており、地本総支部の体制を維持し、変えることは考えていない。支社に在勤する方は、在勤の地本が世話役活動できる体制を考えている。

◆政策については、地方ローカル線に関わる問題については引き続き自治体訪問等を通じてコミュニケーションを取りながら、政策提言を行っている。今後、各地本にも参画していただきたい。

◆女性活躍について、切実な声を頂いた。男女に能力差はないのに上位職の女性比率が男女比率と同じでないことは、能力ではない他の理由があるということ。職場からの声も多く届いており改善が必要である。バスで働く女性組合員の声を頂いた「バス女子会」がコロナで叶わなかったが開催できればと思っている。

◆組織の求心力について、役員の方々は日頃の活動を通じて組合員に声をかけ、人間関係を築いていかなければならぬ。



JR西労組LINEもかなり多めに発信した。工夫する余地があるが、いろんな意見を賜りながら、やっていきたい。

◆政治方針について、情勢によつて変更することはある。



女性活躍は、男女の理解から

田中教育・情宣・国際部長

◆西バス地本では女性の執行委員が誕生しており、両バス地本で女性組合員の交流をするなど、更なる女性役員の育成に取り組んでほしい。

◆ユニカレでは安全の講義を必ず行っており、今年度はご遺族様担当の方や対応本部に在籍されていた方から講話を受けた。安全教育については引き続き行っていく。

◆ホームページはまだうまく活用できていないこともあり、タイムリーに情報を伝えられるようにしていきたい。

◆育児しながら働けるよう環境整備、健康支援を求めたい。

まずはやってみよう！食わず嫌いは損！

沖田青年女性委員長



◆1万人いた青女人数も今は5700人。人数が減ったことでのやりやすさもある。模索し続けたい。

◆青女の年齢制限について理解するものの、線引きは必要である。

◆政治に触れる場に身を置き、関心の輪を広げること。

◆応援メッセージとして、「まずはやってみよう！食わず嫌いは損！」

◆青女活動を実りのある人生のキッカケにしたい。

◆線三セク会社への出向者については、組織と業務課題があると認識している。

◆共済手続きは、世話役活動の最たるもので、コロナ申請が多く大変苦勞を掛けられているが対応をお願いしたい。

◆コロナ濃厚接触者の取扱いは、一定整理をできている。